

★ 地域のお宝箇所

スクラムネット観光部会から



衣襲明神
〜原小須戸〜

原小須戸に通称「遊山山（ゆさんやま）」と呼ばれる低い山がある。昔、その中腹で集落の人たちが景色を愛でながら酒を酌み交わしたそうだ。

そこには養蚕の神様「衣襲明神」と「渋谷・秋山氏霊神」と刻まれた石碑が祀られている。

「衣襲明神」の碑は明治28年の建立、「霊神」の碑は江戸時代に建立したと思われる。明治時代、絹は重要な輸出品で、農家にとっては貴重な現金収入源であったことから、大切な蚕が無事に立派な繭を作ってくれるよう願いを込めて建立したものであろう。

(渋谷直喜)



代議員の皆様方へ

『塩野町地域まちづくり協議会』定期総会の開催

まちづくり協議会も発足7年目となりました。

懇親会も開催しますので、ぜひともご参加いただき、地域の皆様方と今後のまちづくりにご歓談いただきますようお願いいたします。

■日時:4月14日(土)午後5時から
■会場:朝日みどりの里 食堂 日本間

※送迎バスを運行します。

編集後記

昨年度、創立110周年を迎えた塩野町小学校が来年度で閉校となります。その塩小に、次男が最後の1年生の1人として今春入学します。私も通った学校に子どもたちも入学できる喜びと共に、「最後」という寂しさも感じます。

少子化により、塩野町地域から保育園がなくなり、小学校もなくなろうとしています。なかなか訪ねる機会のない方も、小学校に足を運んでみてください。まちづくり協議会も、小学校の有終の美を盛り上げたいと思います。

(早稲田・相馬千恵子)



発行:塩野町地域まちづくり協議会
編集:ほっとニュースステーション
連絡先:朝日支所地域振興課自治振興室(事務局)
TEL 72-6881 FAX 72-0328
E-mail as.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp
URL(ホームページ) http://www.city.murakami.lg.jp

Q&Aによるリレー人物紹介

まちづくりの輪

Vol.12



とがし まさと

富樫 正人さん(早稲田)

Q①趣味は? → A①子どものバスケット観戦

Q②地区の魅力は? → A②山や川に囲まれて自然が豊かで、春には山菜などたくさんの自然の恵みを堪能できる。都会では絶対できない、田舎ならではの魅力です。

Q③どんな地域になってほしい? → A③子どもが元気に安心して外で遊べて、地域の人とふれあえる地域になってほしい。人口の減少もあるので、仕事などで離れている同世代が戻ってこられるような地域にしたいです。

Q④そのためにどうしたら? → A④晴れた日にはなるべく元気に体を動かして、外で遊ばせるようにする。子どもが外で遊ぶと、自然と周りの地域の人と目につき、そこから会話が生まれると思うからです。私の集落では、お盆などに相撲や盆踊りがあるので、帰省中の人にも声を掛けて参加してもらっています。

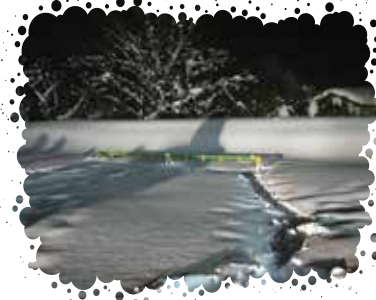
Q⑤地域のおすすめスポットは? → A⑤自然がいっぱいなので、夏は川で遊ぶことと、やっぱり新保岳の頂上から見る景色!! 晴れた日の眺めは、疲れを忘れるくらいです。あとは、冬のぶどうスキー場ですね。冬の晴れた日の雪景色と眺望はおすすめです。

Q⑥好きな郷土料理は? → A⑥大海。毎日でも食べたいです。

Q⑦バトンを渡す次の人は? → A⑦頼もしい先輩である、荒沢の大滝三弘さんを紹介します。

塩ハスノーフェスティバルでのひとコマ...

「先生に「あんなになっちゃたんですよ〜!」と言われてみると、それは、グラウンドの片隅にひっそり雪に埋もれている、いつもは子どもたちに大人気の「あれ」でした…。何だと思いませんか? 答えはまち協ホームページにて!



地域外転出者へ通信を送付いたします。

地域外へ転出された塩野町地域内出身者で、ご希望の方に当通信を送付します。ご親戚・ご友人など送付のご用命の方は、協議会役員または事務局にご連絡をお願いいたします。

塩野町地域まちづくり協議会



第24号



地域の行事

3月

11日 ぶどうスキー場営業最終日
13日 中学校卒業証書授与式
23日 小学校卒業証書授与式
26日 保育園卒園式

4月

3日 大須戸能定期能
9日 小学校・中学校入学式
下旬 原小須戸集落お花見敬老会

5月

5日 蒲萄神楽
7日 荒沢蔵王権現様参拝(荒沢)
26日 小学校運動会

6月

下旬 大須戸さくらんぼ祭り

7月

14日 早稲田神楽(天王様)
15日 原小須戸・本小須戸神楽

※開催時間などは、各集落まちづくり役員にお問い合わせ願います。



ワン(犬)ダブルな一年

〜大須戸・さいの神〜

1月14(日)に、家内安全・商売繁盛・五穀豊穰・無病息災などを祈願し、さいの神の行事が執り行われました。薄曇りの中に覗く柔らかな日差しの下、真っ白な雪化粧を纏った新保岳の眺望に、心の洗われる思いでした。

今年は稲わら7段重ねの立派な物と3段重ねの可愛い物が出来上がりました。

稲わらは、中学生以下の子供たちを交えて行った、田植え・稲刈り・ハサ掛け天日干しの手作業体験を通して用意しました。

真っ赤に燃え上がる炎を見つめながら、作業時の子供たちの笑顔や笑い声を思い出し、心温まるひと時を過ごすことが出来ました。皆さまにとって今年一年が素晴らしいものになるようにご祈念申し上げます。(寄稿:大須戸・齋藤博樹さん)



料理教室を開催しました〜!

1月28日(日)地域おこし協力隊の高橋直人さんを講師に料理教室を開催しました。この料理教室は、集落で人が集う場を作ることを目的に、集落の公民館を会場に実施しているものです。今回は、本小須戸ふれあいセンターを会場に、麻婆豆腐と棒々鶏を作りました。

少人数ならではの和やかな雰囲気で作りを教わったあと、実食を兼ねた昼食会では「この地域がどうなってほしいか」「地域のいいところ」について一人ひとり意見を述べてもらいました。

・「地域の魅力を地元の人が気づいていないのでは」
・「集落行事をきっかけに集落同士で交流しては」
・「地域の運動会をやろう」…などなど。

今後さらに人々の結びつきが重要になることを皆さん感じ取っており、参加者最年少の12歳の女の子は、集落行事が様々あることを地域の魅力に感じているとのことでした。それぞれの地域に対する熱い思いを共有する、よい機会となりました。今後もこの料理教室は定期開催していく予定です。皆さんどうぞご参加ください。



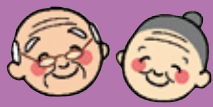
ぶどうスキー場スノーフェスティバル

2月4日(日)ぶどうスキー場でスノーフェスティバルが行われました。蒲萄集落では恒例になりました豚汁の振る舞いを、スキーヤーや来場者の方々へ行いました。当日はあいにくの荒天で、スタッフは準備に大変苦労しましたが、「おいしい〜」「あったまる〜」「おかわりいいですか?」の話を聞けてホッとしました。用意した400食はすぐになくなりました。

(蒲萄・菅原 明)



***** 荒沢集落収穫祭・敬老会 *****



荒沢集落では、敬老会を、集落の収穫祭と同時に開催して、集落全住民対象の行事として行っています。子どもから大人まで参加できる行事とすることで、集落のみんなが顔を合わせることができ、かつ敬老者をお祝いすることができる荒沢集落の取り組みについて、取材しました。

平成29年12月3日(日)に、荒沢収穫祭・敬老会が開催されました。

収穫祭では、老人クラブと婦人会の人たちが集落農産物を使用し、豚汁を世間話をしながら和気あいあいと作っていました。

そば打ち講習会ということで、講師の方に教わりながら実際にやってみると案外難しく、我々が作ったのは太さが揃いで、中にはきしめんみたいな太さになったものもあり、周囲の笑いを誘っていました。

敬老会では、敬老者と集落からの一般参加者を含めて、収穫祭で作った豚汁と手打ちそばを味わいながら、アトラクションの山田夢遊さんとそのお弟子さんのマジックショーを堪能し、楽しい一日となりました。

小さな集落で、何をするにも人数が少なくて大変なっていますが、各種団体が一同に参加する集落唯一行事なので、これからも続けて集落を盛り上げていければいいと思っています。

(荒沢・大滝茂幸)



研修視察報告

NPO地域おこし(十日町市)の取り組みを伺いました。



11月23日(祝)、まちづくり協議会役員11名と事務局で十日町市へ行ってきました。地域と協力隊・移住者とのよい関係づくりや、受け入れを弾みにした地域おこしができるよう学ぶことが目的です。

今回の研修視察には、猿沢・三面の両まち協も参加することとなり、総勢25名での合同研修ということになりました。

講師を務めた多田朋孔さんは、地域おこし協力隊として池谷集落に入り、任期後も定住を決めました。そこでNPO地域おこしという団体の立ち上げに関わり、現在は事務局長として、無農薬米を販売したり、体験イベントで外部から地域に人を呼び込む取り組みを行ったりと、精力的に活躍している方です。

多田さんが、移住したいと思ったきっかけを簡単に表すと、以下のような点だったそうです。

「移住者のための仕事を作り、空き家を修繕し、受け入れ

のための住宅を整備していたこと」「地域のやりたい活動が理想論ではなく具体的だったこと」「村の人が明るい」(これが一番大事)

受け入れ側には、外から来る人を受け入れる体制が必要であり、地元の人が自分の地域に負のイメージを持っていると、それが他者にも伝わり、訪れる人の足を止めてしまうそうです。多田さんは都会との交流事業などを行い、地域を訪れるいわゆる「ヨソモノ」から見た地域の魅力を住民と共有することで、住民も地域への自信を取り戻したとのこと。そして「地域に来てくれる人と力を合わせて、こういう地域にしたい!」という未来ビジョンを住民と作り、集会所に掲示し、度々の思い返しを促すことで、住民の士気も上がったそうです。

中越震災後、廃村の危機にも陥った集落が、現在では若い移住者が増え、子どもも生まれているとのこと。移住者の受け入れは、今後、私達の地域にとっても、関心の深い事柄となるのではないのでしょうか。



地域おこし協力隊・高橋直人の

Shionomarch Vol.6

「協力隊通信 Shionomarch」はまちづくり通信にて連載でお届けしています!

皆さんどうもこんにちは。塩野町地域、地域おこし協力隊高橋直人です。

冬真っ只中、そして2018年が始まりましたね。今年はいよいよ協力隊3年目に入るので集大成になるような活動をして行きたいと思っています!

最近の出来事としては新年に大須戸に「新潟お笑い集団 NAMARA」代表の江口さんをお招きして新春講演会ということで地域活性化について講演して頂いたり、つい先日は本小須戸のふれあいセンターで料理教室を開催させて頂き、交流のキッカケになれて良かったと思っています。皆さんも料理教室に是非遊びにいらして下さい。

それから「農家民宿ひどこ」では雪下ろしをしました。梯子を屋根に掛けて、滑り落ちそうで怖かったですが屋根からの景色は最高でした。

降りてから知りましたが、梯子を掛けて上で作業してた場所は屋根の上ではなくて、飛び出した氷の上だったことが分かり、恐怖しました…。



ひどこの雪下ろし

塩野町小学校の「スキーボランティア」と「スノーフェスティバル」に協力しています。

まちづくり協議会では、塩野町小学校の各種行事に協力しています。

1/17～2/2の間に開催されたスキー授業では、協議会役員3名と地域の方3名に、指導や安全のための見守りにご協力いただきました。「自分にできることだったら…」と快く指導を引き受けていただき、ありがとうございました。

また、2/9に開催された「塩野町小学校スノーフェスティバル」では、地域住民の交流につなげるべく、雪上花火の一部提供と、フオスポット(スノーランタン)の作成を行いました。

一番人気はPTAが作った「スペシャルそり滑り台」。開会式が終わると、子どもたちはそりを手にとって滑り台へ直行! まち協が作ったフオスポットで写真を撮ってくださる方も多く、また、フィナーレの雪上花火でも大きな歓声上がり、気がつけば、最後まで子どもたちの笑い声が途切れることはありませんでした。子どもの時には学校で雪像祭りをして、寒かったけど楽しかったこと…雪の上に温かく光るろうそくの明かりのように、子どもたち、そして保護者の心に楽しい思い出として灯ってほしいと思います。

雪は厄介者ですが、子どもたちにとってスキーや雪遊びは心躍る体験です。雪深い地域だからこそできる行事をとおして、地域への愛着を深めて人々がつながるきっかけとしたい、また、こうした学校行事を、閉校後は地域のイベントとして実施できたらと、まちづくり協議会では考えています。



朝日地区区長会で活動報告

